



崇 栄 中 だ よ り

令和7年9月1日
草加市立栄中学校
TEL 048-941-2587
学校だより9月号

校訓 自主 自律 親和 協力

<http://www.soka-stm.ed.jp/sakae-jh/>

学校教育目標 ○自ら学び考え、行動する生徒 ○豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ○健康で、たくましい生徒
栄中生徒の合言葉 【 ㊦ 爽やかなあいさつ ㊧ 輝く笑顔 ㊨ 英気あふれる 栄中学校 】

平和への誓い「One voice.たとえ一つの声でも変化をもたらすことができるはず」

校長 大野 正浩

現在、他国での戦争が複数発生している。私は、このことに非常に危機感を感じている。令和7年9月1日（月）の2学期始業式に、広島で開催された平和記念式典のことについて生徒たちに話したことを掲載する。

「猛暑日が続いた夏休みが終わり、2学期が始まりました。この夏休みは、特に大きな事故もなく始業式を迎えられてとてもよかったと思います。今日は、2学期に向けて、1つお話をします。毎年8月6日に、平和のための祈念式典がとり行われますが、今日は、今年の広島市の平和記念式典での小学6年生の「平和への誓い」のメッセージを紹介したいと思います。

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずで。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

「One voice.」たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずで。大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

こんな思いを持ちながら学び、語り継ぐガイドボランティアに取り組んでいる広島の子どもがいます。同じ日本に暮らす私たちも同じように平和への思いを持たなくてはならないと思います。この誓いにあるように、自分の周りを平和にすること、相手の立場に立って考えることは、思いやりにつながることで。そのことを今一度、意識して2学期をスタートしてほしいと思います。

そして、今年の9月、10月は、残暑が厳しいことが予想されます。しばらく体が暑さに慣れてない人などは特に、熱中症などに注意して学校生活を送ってください。2学期も様々な行事に積極的に取り組み、一つ一つが思い出に残るように頑張ってください。」